

平成 31 年度事業報告

平成 31 年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下ご報告いたします。

第 4 期指定管理期間の初年度となりました平成 31 年度の施設利用状況ですが、稼働率につきましては前年比で申し上げますと、ホールは 56.0%で 4.8%減、展示多目的室は 53.7%で 11.7%減、リハーサル室は 72.5%で 8.7%減となりました。2 月下旬より新型コロナウイルス感染予防対策として、施設利用の自粛要請が行政から出されたことにより稼働率に大きな影響が出ています。

まず、ホールは、リピーターによる発表会や講演会等の年 1 回もしくは隔年での定期的利用は変わらずですが、新規でのバレエ団体、学生団体などのご利用が多くありました。減の主な要因としては、新型コロナウイルスの影響の自粛による取り消しではありますが、他に隔年利用の団体の利用がなかったことや平日利用が減ってしまったことも要因です。

展示多目的室は、5 月、8 月、9 月、1 月の平日利用が減り、また、ホール利用者の楽屋としての利用がなかったことも要因です。

市内団体による懇親会、同窓会などのパーティー利用は変わらず安定しています。ここ数年は、市外団体による勉強会や展示会などの利用も増え、リピート化が顕著に表れています。

リハーサル室は、ホール利用に伴う楽屋としての利用が比重を占めているため、ホール稼働率に連動しその影響も受けたものと考えます。音楽や舞踊の練習利用は安定し、個人利用も増えています。

今後は、新規利用団体のリピート化への方策や新規利用者開拓の方策を立てていくべきと考えます。

次に自主事業ですが、ホールは 19 事業 19 公演（共催、協力 6 公演を含む）、ステージ&ロビー（ほっとライブ）が 6 事業 6 公演の実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため 3 月に予定していたホール、ステージ&ロビーの計 3 公演が中止になりました。31 年度も例年通りさまざまなジャンルを取り上げ、完売はホール 4 公演、ステージ・ロビー（ほっとライブ）4 公演が完売となりました。

まずホールでの鑑賞型事業ポピュラー系は 5 年振りに実施した「矢野顕子」、開館以来何度も実施している「鼓童」は不動の人気であり、人気出演者 3 名による「青春ポップスコンサート」も盛況でした。過去のロビー公演に出演した若手歌手らによる「エコルマ演歌まつり」を 10 年振りに開催、集客の伸び悩みもありましたが、熱心なお客様のご来場となり好評でした。クラシック系はテーマ性を持たせた企画で行い「映画音楽の旅」には通常より男性客の来場が多く、また、「堤剛バッハ：無伴奏組曲全曲演奏会」は予想以上に反響がありましたが、公演日直前に出演者より延期の申し出があり協議、2 回に分けて実施しました。古典芸能系は定番の「新春落語」がすぐに完売となりました。子ども向けでは人気キャラクターの「ミッフィー」が盛況、また、2 年目となった児童演劇協会との共催事業「ふれあいこどもまつり」ですが、新型コロナウイルス感染予防の対策をしながらの実施となりました。

参加型事業としては、東京文化会館との共催による小学生を対象とした、オペラで使用する小道具の作成「オペラをつくろう」を実施しました。

自主制作型事業は今年度で 10 年目を迎えた「オープンハウス」は、ダンスをテーマに 2 回目の実施となり、市内外のプロ、アマチュア・ダンサーの個人・団体の計 300 名弱が参加しました。なお、12 年目となる狛江ゆかりの音楽家を取り上げる「エコルマ・アンサンブルコンサート」は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となりました。

そして、毎年、狛江市教育委員会からの委託協力事業として市内小学 4 年生を対象とした「公共ホール音楽活性化事業ガラコンサート」を 1 公演、実施しました。

支援型事業に関しては、1団体を決定、実施しています。

チケット販売はホールに関しては完売、ほぼ完売が5公演あり、内容によって凸凹はあるものの比較的順調でした。消費税率が上がったことによりチケット料金の設定を上げましたが、大きな影響はなかったようです。なお、9月からインターネット予約も開始し、こちらも順調に登録者数が増えています。

しかし、3月中旬から新型コロナウイルス感染拡大防止の為、公演の中止、延期をせざるをえなくなり、今後の先行きが不透明になりつつある状況です。